

令和4年度外部評価 事業評価シート

No	1	事業名	子ども発達相談支援事業
所属	子育て健康部子ども発達支援課相談支援係		事業開始年度 平成30年度
事業内容	子ども(18歳まで)の発達に悩みや不安を抱えた家族に専門職が必要なアドバイスや適切な支援を行います。		
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります		
根拠法令等	母子保健法、児童福祉法、障害者総合支援法、学校保健法、学校教育法		
総合計画	5Kの分類:こども(17子育て 障害児施策の充実)		
関連するSDGsゴール	3すべての人に健康と福祉を 4質の高い教育をみんなに 5ジェンダー平等を実現しよう		
関連事業	やまびこルーム事業、サルビア学園事業		

【実施状況】

活動実績	令和3年度	臨床心理士、言語聴覚士、社会教育指導員、相談支援員など専門職による相談及び支援を実施しました。 ●発達相談:(実)916人 (延)4,106件(就学相談含む)、福祉サービス利用相談4,478件 ●1歳6か月児事後指導会(親子教室)47回 ●保護者支援事業(ペアレント・プログラム) 3クール(1クール6回/定員10人) 年間受講数(実)15人 (延)66人 1回あたり受講人数3.7人 ●学齢期支援事業(SST教室) 1クール(7回/定員6組) 年間受講数(実)6組 (延)40組 1回あたり受講数5.7組 《専門職》 臨床心理士 11人 言語聴覚士 4人 作業療法士 3人 理学療法士 1人 社会教育指導員 1人 保健師 2人 相談支援専門員 7人 * ペアレント・プログラムとは 自分と子どもの「いいところ、困ったところ」を整理して行動を客観的に捉えることで保護者自身の気づきを促し、子どもの個性に合った子育てを親子で実現するためのサポート。ネガティブな養育行動が減り、ポジティブな働きかけが増え、精神的な負担が軽減し、子育てをより楽しいものにするための取り組みです。 * SST(ソーシャルスキルトレーニング)事業とは 親子で参加し、集団生活のルールや対人関係のコツを学びます。友だちとかかわるのが苦手な子に、小集団で楽しく実践的に練習することで、親も子もかわり方を掴み、前向きに自信をもって過ごせるようになるきっかけとなります。
	令和2年度	●発達相談:(実)867人(延)3,542件(就学相談含む)、福祉サービス利用相談4,365件 ●1歳6か月児事後指導会(親子教室)39回 ●保護者支援事業(ペアレント・プログラム) 2クール(1クール6回/定員8人及び10人)年間受講数(実)11人 (延)64人 1回あたり受講人数5.3人 ●学齢期支援事業(SST教室) 1クール(7回/定員6組) 年間受講数(実)5組 (延)25組 1回あたり受講数3.6組
	令和元年度	●発達相談:(実)888人(延)3,198件(就学相談含む)、福祉サービス利用相談4,416件 1歳6か月児事後指導会(親子教室)43回 保護者支援事業(ペアレント・プログラム) 1クール(6回/定員12人) 年間受講数(実)10人 (延)48人 1回あたり受講人数8人 学齢期支援事業(SST教室) 1クール(7回/定員6組) 年間受講数(実)6組 (延)34組 1回あたり受講数4.9組
	改善取組 (これまでの改善内容)	相談件数の増加に伴い、専門職の増員を行いました。(R1度 臨床心理士1人、R2度臨床心理士1人、相談支援専門員1人、R4度 臨床心理士2人、社会福祉士1人) また、少しでも多くの保護者が受講できるようペアレントプログラムの開催回数を増加しました。

別紙2

【事業費】

年間事業費等の推移	No	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①	事業費(決算額) (千円)	57,663	65,839	69,420
	事業費内訳	負担金、補助及び交付金	39,081	44,714	44,727
		報償費	2,438	2,218	2,567
		需用費	276	296	288
		使用料及び賃借料	9	10	13
		その他(報酬、旅費等)	15,859	18,601	21,825
財源内訳	②	人件費(従事職員数×6,300千円 令和3年度からは6,600千円) 従事職員数 (人)	44,100	44,100	46,200
	③	総事業費(①+②) (千円)	101,763	109,939	115,620
	財源内訳	一般財源 (千円)	35,059	43,007	42,265
		特定財源(障害児相談支援給付金など) (千円)	22,604	22,832	27,155
		財源合計 (千円)	57,663	65,839	69,420

【活動指標】

ペアレントプログラム及びSST教室にこれまで参加した保護者数(累計)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (目標)	令和5年度 (目標)
	68人	90人	110人

【成果指標】

相談実人数(年少児から小学校低学年まで)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (目標)	令和5年度 (目標)
	628人	600人	580人

【課題】

課題	活動実績・事業成果等を踏まえて記入
	あんステップでは18歳までを相談対象としているため、就学前のみならず就学後や中高生の相談件数も増加しており、全体数が年々増加しています。あんステップ開設から4年が経過し、広く認知されてきたことも一因と考えます。特に、年少児から小学校低学年の間は、子どもを取り巻く環境の変化が大きく、発達に対する影響も少なくない時期のため、不安を抱える保護者からの相談が多くなっています。 相談の増加に応じて専門職を増員することが望ましいと考えますが、専門職を増員するとそれに伴う相談室の数や事務所の広さなど他の問題が生じることが予想されます。

【論点】

外部評価での論点	年少児から小学校低学年の間に、子どもの発達に合ったかわり方ができる保護者を増やすことで相談件数の減少に微力ではあるが結びつくのではないかと考えます。ペアレントプログラムやSST事業は保護者へきめ細やかな対応を心掛けているため、一度に受講者を増やすことはできませんが、今後も継続して実施し、受講者の総人数の増加を目指したいと思います。また内容の充実を図り、保護者や家族が子どもと向かい合う力を高められるよう支援したいと考えます。
----------	---

令和4年度外部評価 事業評価シート

【参考比較】

経年の状況等	当センター開設前、子どもの発達に係る相談は年代ごとに窓口が分かれていました。また、親子療育と子どもが通園する施設も別々の場所にありました。これら場所も所管課も別々であった5つの機能を1つに集約し、「子ども発達支援センターあんステップ🎵」として平成30年7月に開所しました。保護者が、発達に心配や遅れのある子どもの相談の一步を踏み出し、18歳まで継続した相談や支援が受けられるよう、ライフステージに応じた支援を提供します。 また、安城市における発達支援の拠点としての役割を担い、医療、保健、福祉、教育などの関係機関、保護者を含めた連携体制を構築していきます。				
	【これまでの状況】 個々のケースに関しては、必要に応じ、学校・保育施設・事業所・市関係課等と情報共有や協議を行い支援の強化に努めており、連絡、協議の件数も多くなっています。あんステップを勧められたという相談も多く、関係者間で認知されてきたことを感じています。 また、専門職が保育施設を訪問し、発達に遅れがみられる子どものかかわり方などを保育士に助言したり、支援者研修・専門職研修を開催するなど支援者のスキルアップの機会を設けており、毎年多くの関係者が参加しています。 さらに関係機関相互の連携強化と情報共有等を目的とした発達支援ネットワーク会議を年2回、親子教室担当者会を年3回開催しています。また、就学支援委員会（学校教育課）や子育て支援ネットワーク会議（子育て支援課）などにも積極的に参加し、連携の強化に努めています。				

他市の 実施状況等	豊田市子ども発達センター（地域療育相談室）					
	人員	臨床心理士	2人	相談人数	H30年度	766人
		相談員	6人		R1年度	784人
		保健師	1人		R2年度	700人
		事務員	1人			
	岡崎市こども発達センター（発達相談センター）					
	人員	公認心理師	2人	専門相談人数		
		社会福祉士	1人		H30年度	469人
		精神保健福祉士	1人		R1年度	416人
		保健師	5人		R2年度	556人
		保育士	5人			
		教諭	2人			
		事務職	4人			
	豊川市児童発達相談センター（相談事業）					
	人員	保健師	3人	相談件数	令和3年度	電話461件 面接294件
		臨床心理士	2人			
		保育士	1人			